

### Ⅲ. 現代的な教育課題に対応するための実践的な講習内容・方法の研究開発

## カウンセリングの方法 (ビデオ教材)

ビデオを視聴することで、より良い傾聴の手法を身につけていただくことをねらいとして、付属のビデオを制作した。

活用方法については、以下のマニュアルを参照していただきたい。

## 「カウンセリングの方法」

近年、不登校・いじめ・学級崩壊・被虐待・発達障害など、教育現場での問題が多様化しています。

そのなかで、教師はカウンセリングマインドをもって、悩みや困難を抱える子どもや保護者と関わることが求められるようになってきています。

本資料は、仮想の教育相談事例を用いて、カウンセリングマインドをもった対応のポイントを示しました。ご視聴いただくことで、カウンセリングマインドやカウンセリングの方法について、リアルな理解につながると考えられます。

教育相談事例は、さまざまな学校種の教師が受講する教員免許状更新講習をはじめ、教師対象のカウンセリング研修、教職をめざす学生への授業等で活用できるよう、教師が子どもの様子を心配した保護者に対応する場面に設定しています。

これは、子どもとの教育相談では、学校種によって子どもの発達段階に大きく差があるため、相談内容や教師の対応に違いが出るためです。

もちろん保護者との教育相談でも、学校種によって相談内容は異なると思いますが、子どもの様子を心配した保護者に対応する際のポイントは、さほど違いがないと考えられます。

ここでは、中学生の保護者との教育相談事例ですが、中学校以外の教師にご視聴いただいても、カウンセリングの方法やポイントの理解に役立つと思います。

さて本資料は、1つの教育相談事例について「悪い聴き方」と「良い聴き方」、それぞれの解説から成っています。

教育相談事例の途中で、カウンセリングマインドをもった対応のポイントや、教師の心の声が画面上に表示されますので、注意してご覧ください。

「悪い聴き方」では、教師は保護者の話を聴かず、相談が終わっています。

「良い聴き方」では、担任がカウンセリングマインドをもって保護者の話を丁寧に聴き、保護者と教師の間に信頼が生まれています。なお詳細な内容は、次ページ以降に示しておりますので、ご参考ください。

この資料を活用していただくことで、少しでも多くの教師に、カウンセリングマインドをもった対応とはどのようなものか実感し、理解し、そして実践につながれば幸いです。

以下は、中学生の子どもの様子を心配した母親が、担任に相談する場面です。

## 悪い聴き方

発言者	発言内容	「担任心の声」、ポイント
母親 1	先生、今日はわざわざ時間をとっていただきまして、ありがとうございます。	
担任 1	いえいえ。今日はどうしました？	「面倒だなあ」
母親 2	あの、うちの子、学校でちゃんとやっていますか？	
担任 2	ええ。問題なく、元気にやっていますよ。	
母親 3	そうですか…	
担任 3	…	× 聞く態度に気をつけましょう
母親 4	あの、私の気にしすぎかもしれないんですけど、うちの子、2～3週間前ぐらいから、毎朝お腹が痛いと言ってトイレにこもって、学校に行きたがらないんです。	
担任 4	でも、休むことなく、ちゃんと出席してますよね。遅刻もないし、授業を休んでトイレや保健室に行くこともないですよ。	「心配性な母親ね」 × すぐに意見を否定しない
母親 5	今のところ、遅刻はさせたくないなと思って、私が急かして学校には行かせています。遅刻しそうなときは、いけないなとは思っているんですけど、学校の近くまで車で送ったりもしてしまして。	
担任 5	…病院には行きましたか？	「過保護な母親ね…」
母親 6	いえ、まだ行っていません。	
担任 6	行ってみたらどうですか？	
母親 7	そうですね、はい…あの、でもうちの子、小さい頃から、特にお腹とか体が弱いというわけではないですよ。でも毎朝お腹が痛いって言うのは、もしかしたら学校に行きたくないとか、何か悩みがあるんじゃないかと思ひまして。息子に「何か悩みでもあるの？」って聞いてみたんですけど、本人は「ない」って言うんですよ。私の心配しすぎかなとは思うんですけども、このままいくと、もしかしたら不登校とかになるんじゃないかと思ひまして。	× 聴く態度に気をつけましょう

担任 7	・・・	「不登校？大げさな！」
母親 8	あの、先生の目から見て、うちの子どうでしょうか、大丈夫でしょうか？	
担任 8	佐藤くん、特に気になることはありません。 友達との関係についても、私が見る限り問題ありませんよ、何年も子どもを見てきた私が言うんだから大丈夫ですよ。 お母さんの気にしすぎではないですか。	× ちゃんと理解していないうちに安易に意見を伝えない
母親 9	そうですね……すみません。	
担任 9	そんなに気になるようでしたら、スクールカウンセラーに相談してみたらどうですか？ 話を聴いてくれますよ。	「面倒だから誰かに任せよう」
母親 10	はい……	
担任 10	そうしましょう、そうしましょう！ ちょっとカウンセラーがいる時間を確認してみますね。	「よし！一件落着」

### 【解説】

担任は、母親の話をきちんと聴くことなく、「子どもに問題はなく過保護な保護者だ」と決めつけています。また、自分が母親や子どもに対応しようとする気はなく、面倒だからとスクールカウンセラーをすぐに紹介し、対応を任せようとしています。

母親の目線になると、「自分の気にしすぎではないか……」と思いつつ、勇気を出して担任の先生に相談しました。しかし担任は、母親の話を聴く様子はありません。さらに、すぐにスクールカウンセラーを紹介されたことで、たらい回しにされたような気持ちになり、担任を信頼する気持ちにはなれません。このような対応をされると、今後何か困ったことがあっても、相談しようという気持ちにはなれません。

## 良い聴き方

発言者	発言内容	「担任の心の声」、注意点
担任 1	佐藤くんのお母さん、学校まで来ていただいてありがとうございます。	○ まず相談に来てくれたことをねぎらいましょう
母親 1	こちらこそ、今日はわざわざお時間をとっていただいて、本当にありがとうございます。	
担任 2	いえいえ。今日はどうなされましたか？	○ 開かれた質問で話を引き出しましょう
母親 2	はい、あの、うちの子ですが、学校ではちゃんとやっていますでしょうか？	
担任 3	ええ。私からみて、特に気になる所はなく、元気にやっているように見えますよ。	
母親 3	そうですか……	「話しにくいことかしら……」
担任 4	お母さんからみて、何か気になることがおありなんですよね。 ゆっくりでいいので、教えてください。	○ 聴く姿勢を見せましょう
母親 4	はい。私の気にしすぎかもしれないんですが、息子が、2～3週間ぐらい前から、毎朝お腹が痛いと言って、トイレにこもって、あの、学校に行きたがらないんです。	
担任 5	そうですか、それは心配ですね。 佐藤くん、学校では授業を休んでトイレや保健室に行ったりすることもないですよ。 ちゃんと真面目に授業を受けています。 それに、毎朝お腹が痛いと言ったがらないということですが、佐藤くんは遅刻もないですよ。	○ 気持ちを推測し共感しましょう  「学校で気になることはないけれど私が気づいていないことがあるのかな……」
母親 5	はい。今のところ、遅刻させないように、私が急かして登校させています。 間に合いそうにない時は、車で学校の近くまで送ったりもしているんですけど……	
担任 6	そうですか。それで遅刻がなかったんですね。 それにしても、お母さんも毎朝、努力されていますね、大変でしょう。	「保護な気もするけれど母親なりにがんばっているのね」 ○ 対応の良し悪しはいったんおいて努力をねぎらいましょう
母親 6	そうなんです。 もう私が何度起こしても、グズグズしてちっとも起きてこないし、起きたら起きたで、今度はお腹が痛いと言ってトイレにこもってしまって、登校時間になってもち	

	つとも準備しないので、イライライライラしてしまっ	
担任 7	それはイライラしますね。	○ 共感しましょう
母親 7	はい。それでももう本当に、良くないなどは思っているんですけど、私つい毎朝怒鳴ってしまうんですよね。私が車で連れて行ったりするから、息子も甘えちゃつてるところもあると思うんですけど、でも一度遅刻したり、学校を休んだりすると、そのままズルズルっと悪い方に行くんじゃないかと思ったら心配で。	「毎日たいへんそうだな・・・」
担任 8	お母さんは、一度遅刻や欠席をすると悪い方向に行くんじゃないかと心配だから、佐藤くんを怒鳴ったり、車で送ったりするんですね。あの、腹痛ということですが、病院で診てもらいましたか？	「母親も毎日がんばっているんだな」 「ところで身体は大丈夫なのかしら・・・」
母親 8	いえ、まだ行っていません。もともと特にお腹や身体が弱いということもないので。ですが、毎朝お腹が痛いって言うのは、学校に行きたくないとか、なにか悩みがあるんじゃないかと、私思うんですよね。それで、息子に「何か悩みがあるの？」って聞いてみるんですけど、息子は「ない」って言うだけで。今のところ、何とか学校に行っていますけれども、このままいくと、もしかしたら不登校とかになるんじゃないかと思ったら心配で。	
担任 9	お母さんは、佐藤くんが何か悩みがあつて、お腹が痛いと言っているように思われるんですね。	○ 話をまとめましょう
母親 9	はい、そうなんです・・・	
担任 10	お母さんからみて、何か心あたりがありますか？	「どうしてすぐに悩みが原因と考えるのかしら」
母親 10	あの実は、小学校の時も、同じようにお腹が痛いと言って、学校を休んだことがあるんです。確か 4 年生の時でした。あの時も、毎朝お腹が痛いと言うので、学校を休ませていたんですけど、お昼ぐらいになると元気になりますし、病院に行っても特に問題がなかったんですよね。それで、学校に行きたくないからお腹が痛くなるのかな、と思ひまして。最初は聞いても何も言わなかったんですけど、結局、友達にからかわれるのが嫌で、学校に行きたくなかったみたいで。その時は、担任の先生にご相談して、結局、ちゃんと学校に行けるようになったんですけど。	「そうか！それで母親は心配していたのか」
担任 11	小学校の時に、今回と同じようなことがあつたから、お	○ 共感しましょう

<p>母親 11</p> <p>担任 12</p> <p>母親 12</p> <p>担任 13</p> <p>母親 13</p>	<p>母さんも心配されているんですね。 話していただいて、ありがとうございます。 私の目からみて、これまでは気になる所はなかったのですが、明日から、気をつけて佐藤くんの様子をみますね。 お母さんの方でも、お家で気になるようなことがあればすぐに連絡してください。 お腹の痛みが、お母さんのおっしゃるように、悩みから来ているのかもしれませんが、身体のどこかが悪いという可能性もあると思います。 なので、一度病院でも診てもらった方がいいと思いますよ。 身体の方が何も問題ない、ということが分かれば、佐藤くんのお腹の痛みの理由をしっかりと考えることができますからね。</p> <p>確かにそうですね。 私も、小学校の時のことがあったので、今回も同じだと決めつけていたように思います。 まずは病院に行ってみたいと思います。</p> <p>また病院に行かれたら、そこでどう言われたか、教えてください。</p> <p>わかりました。またご連絡します。</p> <p>お願いします。 もし心理的なものが原因ということでしたら、週 1 回スクールカウンセラーが来ているので、カウンセラーの先生に話してみるのもいいかもしれません。</p> <p>そういうこともできるんですね。また、考えてみます。 先生、今日は本当に、相談にのってもらって、ありがとうございました。 これからもどうぞよろしくお願いいたします。</p>	<p>○ 打ち明けてくれたことに感謝しましょう</p> <p>○ 今後の対応を伝えましょう</p> <p>○ 相談を歓迎していることを伝えましょう 「母親の気持ちは分かったけれど何かの病気の可能性もあるな・・・」</p> <p>○ 情報を提供しましょう 「私だけでは対応できないかもしれないから養護教諭や学年主任にも相談してみよう」</p>
--	--	--

**【解説】**

担任は、母親が相談に来たことをねぎらい、母親の気持ちに共感する言葉かけをしています。悪い例と同様に、母親が過保護ではないかと思う気持ちもありますが、母親の話を丁寧に聴いていくことで、心配している理由を知ることができ、本心から母親や子どもを心配する気持ちになりました。

母親の目線になると、担任の先生が丁寧に自分の話を聴いてくれたことで、今後も、何かあったらすぐに相談しようと思えます。問題は解決しませんでしたでしたが、信頼関係を築くきっかけとなりました。